

遠方檀家や孫世代と寺院 がつながるLINEの 上手な使い方と注意

超デジタル時代に今からお寺ができる新しい試み

今や多世代にわたって利用されている「LINE」アプリ。そのビジネス向けサービスを活用し、お寺のLINE公式で個々の檀信徒とつながるお寺が増えている。メリットや上手な使い方、注意点を、活用する住職に指南いただいた。

お寺からの情報や仏事を、親と離れて暮らす檀信徒の子や孫にどう伝えるか。どのお寺も悩ましいところだろう。長野市にある浄土真宗本願寺派西敬寺の木賣慈教住職（四十八歳）は、こう振り返る。「うちでは、お寺の本堂でご葬儀をしま

しょうと『お寺葬』を勧めています。ですが、それを希望していた門徒さんが亡くなられた際に、離れて暮らすお子さん（喪主）がそのことを知らず、結局、故人の遺志を叶えることができなかった。そうしたことが二、三回起きたのです」

寺報を送っても、離れて暮らす家族にはなかなか見てもらえず仏事の情報も、後継世代には伝わりにくい。どうしたらいいのか。そこで木賣住職が新たに始めたのが、「西敬寺LINE公式」を作ることだった。現在、小学生からお年寄りまで、三百名近い檀信徒と、西敬寺LINE公式を通じてダイレクトにつながっているという。

通常のLINEと何が違うのか

スマートフォン（以下、スマホ）やパソコンなどで使えるモバイルメッセージングアプリ「LINE」。文字や写真、動画、ファイルなどが共有でき、通話もできるこのアプリは、今や世代を超えて普及している。NTTドコモの調査によれば、令和三年五月時点でスマホ・ケータイ所有者におけるLINE利用率は81・1%。十代から三十代では九割に上る。この高い普及率を販促や集客につなげ

お寺の情報がLINEに届く（西敬寺）



るビジネス向けサービスが「LINE公式」だ。読者住職も、飲食店など町の店舗で「〇〇店のLINE公式を登録しませんか？」というQRコード付きの張り紙を目にしたことがあるだろう。店舗のアカウントをLINE登録すると、自分のLINEアプリに店舗からの情報（「セール開始」「新商品入荷」等）がどんどん入ってくる。手元に情報が勝手に入ってくる印象だ。これを、お寺版でやってみようというのが「〇寺LINE公式」であり、挑戦するお寺が増えている。冒頭の木賣住職もその一人で、今や他寺のサポートやお寺同士で講習会を開くほど新たな布教ツールとしてのLINE公式に注目している。とはいえ、アナログ

「LINE」と「LINE公式」のやり取りイメージ

- | | |
|--|--|
| <p>LINEの場合
「本人⇄友達」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1つのトークルームで1対1のやり取り | <p>LINEグループの場合
「複数人で⇄(本人・友達・友達・友達...)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1つのトークルームを複数人が共有してやり取り |
| <p>LINE公式の場合
「管理者（住職、寺族等）⇄登録者（檀信徒等）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1つのトークルームを管理者と登録者（個人）で共有するが、管理者は全登録者に一斉配信できる。また個別のやり取りについては、チャット機能を使うことで、通常LINEと同様に1対1で個別対応できる | |

世代には今ひとつその使い方もメリットもよく分からない。そこで今回、西敬寺の実例をあげながら、木賣住職にご指南いただいた。

まず、通常のLINEとLINE公式のトークルームを通じたやり取りの大きな違いを確認しよう。右の図はイメージだが通常、

プライベートで使うLINEの場合、一つのトークルームを一对一か、家族や仲間同士などの「グループ」で利用することが多い。LINEグループは、一つのトークルームを複数で共有していることから、リアルタイムでメンバー全員が投稿を共有できるのが特徴。本誌でも以前災害支援の現場で僧侶がこのLINEグループを臨機応変に活用した事例を紹介した。

一方、LINE公式の場合は、管理者対登録者（ユーザー）という構図だ。お寺に置きかえれば、管理者（住職、寺族等）と、登録者（檀信徒等）となる。LINE公式はいくつかの基本機能（メッセージ配信、LINEチャット、LINEユー・クーポン、分析）があるが、やり取りでは「メッセージ配信」と「LINEチャット」に注目しよう。前者は管理者が登録者にメッセージを送る機能だが、便利なのは一斉配信ができること。前述した店舗からのセール情報もそうした機

令和3年度
(仏暦2564年)

西敬寺報恩講法要
並びに物故者追悼法要

12月19(日)

ご出欠 受付フォーム

12:31

本年度報恩講のご出欠締め切りが12月5日となっております。上記の受付フォームをタッチして頂きますと、簡単にお手続きが出来ます。お手元へ返信ハガキがある方も、こちらでお手続きして頂きましてハガキのご投函の必要はございませんので、お気軽にご利用下さいませ。

12:31

グループドライブの機能を使い行事の出欠案内も

追加」(登録)してくれた人に次のようなあいさつ文(右頁左の画面)が自動配信される設定を行い、工夫してきた。

《〇さん、友達追加ありがとうございます。〇寺LINE公式です。この通知をご確認頂きましたら大変お手数ですが、必ずトークにてお名前(フルネーム)をご入力頂きご返信下さい。(本登録完了となります)》

時、〇寺の最新情報をお届けします。尚、トークのご利用に関しては以下の★をご理解頂きご利用下さいませ。★本登録(最初のトーク)以降はお名前をご入力頂く必要がございません。★ご返信に関しては、住職・坊守が手動にて対応致します。

能による。後者の「LINEチャット」は、個々のユーザーと管理者との間で個別のやり取りができる機能。通常のLINEのトークと同じように、一対一のコ

西敬寺 (@saikyoji)

{Nickname}さん、友だち追加ありがとうございます。{AccountName}LINE公式です。

この通知をご確認頂きましたら大変お手数ですが、必ずトークにてお名前(フルネーム)をご入力頂きご返信下さい。(本登録完了となります)》

本登録が完了しますと随時、西敬寺の最新情報をお届けします！

尚、トークのご利用に関しては以下の★をご理解頂きご利用下さいませ。

💡 本登録(最初のトーク)以降はお名前をご入力頂く必要はございません。

💡 ご返信に関しては、住職・坊守が手動にて対応致しますのでお時間がかかる場合がありますご了承下さいませ。

💡 トーク内容はご本人様と管理者(住職・坊守)のみに共有され、他ユーザーが閲覧することはありませので、お気軽にご法事のご予約や仏事相談などをご入力下さい。

西敬寺 LINE公式

友だち追加(ご登録)のお願い

西敬寺のLINE公式が出来ました。「友だち追加」して頂くと、お持ちのスマートフォンのLINEに最新情報やご法要・各種講座のお知らせが届きます。また、皆様のLINEからのお問い合わせ・各種お申し込みいただけるようになります。

【友だち追加方法】

LINEの友だち追加からID検索で

@saikyojiと入力

または、スマートフォンのカメラを使い右上のQRコードを読み取って追加して下さい。

追加方法が分からない場合、住職・坊守にお気軽にお声がけ下さい。30秒ほどで追加完了します。

檀信徒にアカウント登録を促す告知

しますのでお時間がかかる場合があります。ご了承くださいませ。★トーク内容はご本人様と管理者(住職・坊守)のみに共有され、他ユーザーが閲覧することはありませので、お気軽に法事のご予約や仏事相談などをご入力下さい》

では、どう使うか。

郵送の経費削減や檀務管理にも

便利なのがやはり「メッセージ配信」だ。89頁の写真は西敬寺のLINE公式の画面で令和三年十二月十九日開催の報恩講および物故者追悼法要の案内時のもの。当日の概要から、持ち物、お布施、報恩講の解説まで詳細に記載されている。「寺報と一緒に配布しているチラシのデジタル版です。せっかく郵送しても寺報は当主のところまで止まってしまいがち。LINE公式の一斉配信を使えば、家ではなく個人の手に、一送信で情報をお届け出来ます。また、郵送費の節約にもなります」と木賣住職。法要だけでなく災害時など、緊急時にも便利な機能だろう。

登録者に最初にあいさつ文を設定

LINE公式は無料でアカウントが複数取得でき、好きなアカウント名をつけられる一方、IDについては運営者側からランダムに振り分けられる無料版と、有料版がある。木賣住職によると、「西敬寺では年額千三百二十円のプレミアムIDを申請して@saikyojiを取得しましたが、企業と違い、お寺のLINE公式を門徒さん方が登録する際にはQRコードで読み取れる方がほとんど。無料IDで十分でしょう」という。無料で始められるが、利用の上限がある。たとえば前述の「メッ

ミニケーションが可能だ。

無料だが運用には要注意

開設は、そう難しいことではない。自分個人のLINEアカウントがあれば、スマホまたはパソコンにLINE公式(LINE for Business)をダウンロードして、手順に従い作成する。留意点もある。

セージ配信」の上限は一月千通まで。一斉配信の場合、百人に送ると百配信となる。二百人登録のお寺の公式アカウントの場合は、一月にできる一斉配信は五回までだ。それ以上の送信を希望するなら有料プラン(月額五千円)がある。だが、「無料のLINEチャットや、送信方法を工夫することで、十分に情報を伝えられます」と木賣住職。

アカウントを開設したら、皆に登録してもらうために周知する。上の告知はその一例だが、スタート時に気を付けるべきがもう一つある。「あいさつ文」だ。「私がLINE公式で一番困ったのが、せっかく登録してくださっても数が増えたことしか分らず、新たに誰が登録してくれたのか分かりませんでした。実は登録者側から一度トークで返信をいただき個別のルームを生成しないと、誰が登録してくれたのか分からないのです」

単に登録者を増やすのみならず、「つながる」ことを目的とした、お寺ならではの課題だ。そこで木賣住職は「友だち

なお、全登録者ではなく、自動的に振り分けられる属性(居住地域、年代等)や管理者のタグ付け(門信徒、他寺関係者、関係業者等)によって送信先を絞ることもできる。送信時間も指定できるそうで「うちではお昼時など、ちょっと一息つく時に見てもらえるよう送っています」というから、なかなか戦略的だ。

「チャット」機能も、お寺と檀信徒のやり取りに合っているという。

「LINE公式のチャットは、登録者の数だけお寺との個別のトークルームが作られる感じです。お寺が責任を持ってプライベートも守ることが出来ます」

近況報告や相談、仏事の申し込みもチャットを通じて寄せられることが増えたというが、そうすると管理が大変だ。が、ここでも便利な機能があるという。

「LINE公式は、管理者が『管理者権限』を与えることで、複数人で管理出来ます。うちは私と坊守で共同管理しており、チャットを通じた法事の申し込みも気づいた方が返信し、カレンダーアプリ

